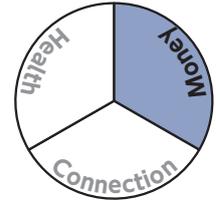


各国の主要政治・経済イベント予定 (4月8日時点)



5月の各国主要政治・経済イベント

	日本	米国	グローバル
上旬		4月ISM製造業景気指数(1日) FOMC(4月30日-1日) 4月雇用統計(3日) 4月ISM非製造業景気指数(3日)	(中)4月財新製造業PMI(6日) (英)金融政策決定会合(9日) (英)1-3月期GDP速報値(10日)
中旬	1-3月期GDP1次速報(16日)	4月消費者物価指数(15日) 4月小売売上高(15日)	
下旬	4月貿易統計(22日) 4月消費者物価指数(24日) 4月鉱工業指数(31日)	1-3月期GDP改定値(30日) 4月個人消費・所得(31日)	(英)4月消費者物価指数(22日) (欧)5月消費者物価速報値(31日)

(注)作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。

5月の政治・経済イベント「ISM製造業(非製造業)景気指数」

ISM製造業(非製造業)景気指数は、ISM(Institute for Supply Management、全米供給管理協会)が400社以上の大企業を中心とした購買担当者にアンケート調査を行い、毎月公表している景況感を表す指数です。50%を上回れば景況感が改善、下回れば悪化を意味します。前月の値が、製造業の指数は毎月第1営業日に、非製造業の指数は毎月第3営業日に公表されるため、速報性が高く、景気動向の先行指標として注目されます。よく似た経済指標に、PMI(Purchasing Manager's Index、購買担当者景気指数)がありますが、PMIは調査対象に中小企業も多く含まれ、サンプル数は多い一方で、米国の国内事業に限定して景況感をヒアリングしている、という違いがあります。

直近3月のISM景気指数は、製造業が50.3、非製造業が51.4と共に節目の50を上回りました。特に、製造業は市場予想(48.3)を上回り、22年10月以来、1年5か月振りに景況感の改善を示しています。市場では、景気の拡大によりインフレが再燃し、年央と予測されていたFRBの利下げタイミングが後ずれするのかどうか、に注目が集まっています。

(主任エコノミスト：阿原 健一郎)

